

特別支援学級の小学校4年の児童に対し、視覚的に分かりやすくした支援を行うことによって、安定した学校生活を送れるようにした取組

1. 事例の概要

A児は、B小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する4年生である。算数と自立活動以外は交流及び共同学習で通常の学級で学習している。

A児は情緒障害の傾向があり、特別支援学級に在籍する以前は、学習に対して前向きに取り組もうとする反面、算数の学習や生活面で、自分の思い通りにならないとストレスからイライラしてしまい、教室で突然大声を出してパニックになってしまう様子が見られていた。特別支援学級での学習では、いつでも九九を確認できるように九九表を手元に置きながら問題を解いたり、マス目の大きい計算専用プリントを用意したりして、自分の力で学習できる機会を作ってきた。また、ゲームに負けるといつまでも悔しがり、気持ちのコントロールが難しい場面が交流学級でよくみられた。そのため、特別支援学級では少人数で、はっきりしたルールの中で気持ちよくゲームに参加ができる体験を積み重ねてきた。

その結果、少人数では自分の気持ちを落ち着いて話し、穏やかに学習や自立活動に取り組む事ができるようになり、徐々に気持ちの安定した学校生活を送ることができるようになってきた。

キーワード スケジュールの視覚化、支援会議、ソーシャルスキルトレーニング (SST)

2. 児童の実態

A児は普段は穏やかで、学習にも意欲的に取り組む事ができる。その反面、自分の思い通りにならなかつたり、学習が思うように進まなくなつたりした時にイライラして周りの人や物に当たってしまう、大声を出す等の行動に出てしまう事がある。一度パニックになってしまうと自分でクールダウンすることは難しいため、周りがA児のもとを離れ、担任等の近くにいる大人がA児を一人になれる場へ移動させていくことでクールダウンを図るようにしている。

A児は文章を書いたり作文を大勢の前で発表したりする事は大好きである。算数は特別支援学級で学習をしており、四則計算がやや苦手で、一度学習した内容のもので解き方を忘れることがある。また、計測する際の見盛りを読み取る事が苦手で、新しく学習する内容も定着までに時間がかかる。課題に一生懸命取り組むが、一度にたくさん問題に取り組むと誤答が目立つため、学習量を調整したりヒントを手がかりにしたりして学習が進められるようにしている。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- B小学校入学前よりB小学校のあるC村就学相談委員会で情報を共有し、それを踏まえて入学直前に移行支援会議を行った。スクールカウンセラーも支援会議に参加した。【基礎1】
- 教職員に対して定期的に研修の機会を設け、合理的配慮に関する学習を行って

いる。【基礎2】

- ドリル学習の時間では、4年生以上が一人1台使用できるタブレット型端末があり、計算等の基本的なドリルを交流学級で他の児童と同じように行っている。

【基礎4】

- 気持ちを落ち着かせるための部屋（相談室）を確保している。【基礎5】
- 特別支援教育支援員が3名配置され、通常の学級および特別支援学級にて必要に応じて支援を行っている。【基礎6】
- A児は、算数と自立活動の指導を特別支援学級で行っている。自立活動の時間に生活面の指導やソーシャルスキルトレーニング（以下、「SST」という。）を通じたコミュニケーションの取り方等を他の児童と共にしている。【基礎7】

4. 合意形成のプロセス

保護者は、B小学校入学前に、言葉の不明瞭さと発達に関する不安を圏域の障害者支援センターへ相談した。その結果を保育園と小学校で情報共有した上で、B小学校に入学した。入学後も支援会議を重ねる中で、通常の学級での集団生活のスキルを身につけることを大切にしながら、特別支援学級での個別指導を取り入れる方法をスクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーター、学級担任から保護者に提案をした。支援会議では特別支援学級への入級の可否を保護者に確認し、さらに、校内就学相談委員会やC村就学相談委員会で検討し、現在に至っている。

5. 合理的配慮の実際

- 交流学級での座席は、他の児童のことを気にしないような位置に配置し、班には、A児が行動の手本にすることができるような児童を配属した。【合理①-1-1】
- A児は同じ空間で別の学習をしている児童の動きも気になることから、段ボールで仕切りを作り、学習に集中できるように配慮をしている。【合理①-1-1】
- 1時間の活動の見通しを「今日の予定」メモに記して視覚化できるように配慮した。終わった課題に自分でチェックを入れていくようにした。【合理①-1-2】
- 筆算で位を確実にそろえられるように、ノートとは別に10mm四方のマス目のある計算専用プリントを用意した【合理①-1-2】

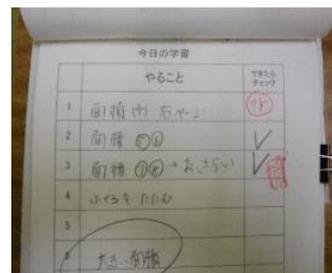


写真 「今日の予定」メモ

6. 本事例の成果と課題

取組の成果として、A児が、特別支援学級に在籍することで自分のペースで学習し、落ち着いた学校生活が送れるようになってきた。全校児童の前でも積極的に発言する姿から、自分に自信を持ち始めている様子が見えてくる。学習では、A児にとって無理のない量を課題とすること、1学年下の復習も同時に進めていくことで学習の定着が図られるようになってきた。

課題としては、SSTの時間で行っている、「人の話を聞く」スキルを今後どのように般化させていくかが課題である。また、進路指導も来年度から進め、A児が将来像をイメージする学習を考えていく必要がある。